

## キリストの体の部分と された者の生き方

I コリント12 章12～31 節  
2021年9月05日  
松田 基子 師

イエス・キリストは、私達人類を永遠の罪の滅びから救うために、神の御子の位まで捨てて、私達と同じ肉体を持ってこの世に生まれ、その身に全人類の罪を一身に負い、神の子のあたいを差し出して、十字架に架かり、人類の罪を贖って下さいました。神さまはイエス・キリストによる御救いを、キリストを信じる全ての人に、お与えになりました。

イエス・キリストを信じた人たちを、キリスト者と呼びます。キリスト者にとって、永遠の滅びから救われ、天の御国に登録されたことは、何ものにも勝る喜びです。しかしここでちょっと考えて見たいことは、神さまは、キリスト者をただ、天国に招くために救われたのでしょうか。キリスト者が自分の思いのままに、自己実現出来るようになるために、救われたのでしょうか。

洗礼を受けて、教会の一員となり、キリスト者とされたことを、何かそのように、自分の利益のためだと考えている人もいます。しかし、キリスト者とされたという事は、最早自分の為ではなく、贖い主であるキリストのため、キリストの体である教会に連なって、イエス様の栄光を現すために救われたのでした。イエス・キリストの御救いを受けたという価値は、ここにあるのです。洗礼を受けて教会員となっても、そのところがはっきり自覚されないと、教会に対する不平不満を言い、トラブルを起こすことになってしまいます。今、学んでいますコリント教会のさまざまな問題も、彼らが真のキリスト者としての自覚と、キリストの体である教会という、教会観が無かったことに起因しています。

コリントは、地の利から、ヨーロッパとアジア、アフリカの貿易、文化の交流地点として、商業、建築、工芸、学問、文化が栄えた大都市でした。コリント教会は、その中に建てられた教会でした。教会員は、その地の影響を受けていました。

有能な人たちも、沢山いた様です。12章8節から、彼らの有能さが記されています。

「ある人には『霊』によって知恵の言葉、ある人には同じ『霊』によって知識の言葉が与えられ、ある人にはその同じ『霊』によって信仰、ある人には唯一の『霊』によって病気をいやす力、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。」

とあります。これだけ色々な賜物を持った人がいたら、教会は、一致して、

『良い働きが出来たぞな～』と私達は思いたいのですが、実はそれがトラブルの元になっていたのです。

どうして、そんな事になってしまったのかと言いますと、彼らは互いに、自分に与えられたその賜物を誇り合ったのです。本来それは皆、神様が教会を立てあげるためにお与えになった賜物です。賜物ですから、神さまからの頂き物です。それなのに彼らは、それを自分の有能さや、努力に依って得られたものとして、

「わたしは、こんなに素晴らしい事が出来る」と他と比べて、優越感を抱き、誇ったのでした。

パウロは彼らの優越感に対しては、4章7節で、

「あなたをほかの者たちよりも、優れた者としたのは、だれです。いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるのでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいただかなかったような顔をして高ぶるのですか。」

と諫めています。パウロはキリストの御救いを受けながら、相変わらず、この世の価値観、この世の考え方を引きずって、それを教会の中に持ち込む人たちに対して、

『キリスト者とされたということは、どういう存在になったのか、どうあるべきか、信仰の目を開かせることに必死です。』

パウロは天に帰られたイエス・キリストからの御声を聞いて回心しましたが、また、イエス・キリストからご自身の奥義を啓示された人です。

その一つが、

『教会は、イエス・キリストが地上に残された体であり、教会の頭はキリスト、体である教会は、聖霊に依ってキリストと結ばれ、全体は生ける有機的存在である。』

という、この奥義です。パウロはこの事を、コリント教会に自覚させることの、必要を感じました。そこで、先ず、体の機能の説明から始めました。12節に、

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。」

と言っています。つまりキリストの体である教会も、多くの部分を持ち、多くの人々から成り立ち、一つの体とされているということです。

その理由として、13節に、

「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシャ人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。」

と言っています。神さまご自身が、キリスト者を新しい存在にして下さいました。この世の民族や社会的身分とは、全く関係なく、キリスト者はキリストの体の部分となるために救われ、洗礼を受け、互いはキリストの体となって、聖霊を受けたのです。

では、キリストの体となったことに、どんな意味があるのでしょうか。14節に、

「体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。」

とあります。この事は誰にでも分かる事です。ここでパウロは、コリント教会の一面を、体の器官に喩えて示しました。15節に、

「足が、

『わたしは手でないから、  
体の一部ではない』

と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。耳が、

『わたしは目ではないから、  
体の一部ではない。』

と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。もし、体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし、全体が

耳だったら、どこで匂いをかぎますか。」と問い掛けています。

コリント教会の人たちは、パウロの問いに対して、

「そんな事は、分かり切った事じゃないですか。」

と言いたかったでしょう。パウロはここで、体の事を言っているのではありません。コリント教会のキリスト者の状態を言っているのです。足が手ではないから、耳が目ではないから、つまり、自分を活発で、有能な奉仕者と比べて、『私はあんな大層な奉仕は出来ない、私にはそんな能力も時間もない、私なんか教会に必要とされていない。』と思っている人達がいきました。

しかし神様のお考えでは、教会の奉仕や、その人の存在に、優劣は全くありません。パウロは、18節に、

「神は、御自分の望みのままに、体の一つ一つの部分を置かれたのです。」

と言っています。詳訳聖書には、

「神は、体の中に、色々な部分、諸器官を各々特殊なものとして、御旨のままに適当に、お考えになる通りに、最善の適合性をもって備え、配置されたのです」

と訳されています。

創造主である神さまにとっては、どの器官も体が健やかに活動する為に、なくてはならない独自性が与えられた、比べる事が出来ない存在なのです。それを比べるのが、人間なのです。そこに逆戻りしないで、創造主なる神さまに造られたからには、そのような思いは皆捨てて、神様の前に生きて、自分の出来る奉仕を、神さまに捧げれば良いのです。

今度は反対に、21節に、

「目が手に向かって、

『お前は要らないとは言えず、』

また、頭が足に向かって

『お前たちは要らない。』

とは、言えません。」

と言っています。目が手に向かって、頭が足に向かってとは、明らかに、人間的な能力があると、

自負している人達が、自分の能力、奉仕を誇って、能力のない人、目立たない人、誰にでも出来る奉仕をする人達を、つまらないと見下したり、目障りだと排除している様子が、そこには現されています。自分の体であれば、手を切り離し、足を切り離れたならば、全く身動きが取れない悲惨な状態に陥ることは分かるのですが、教会の中では、キリストの体と言う自覚が無いために、自分に気に入らない人を、排除してしまうという事が起こるのです。

そんな彼らに、パウロはキリストの真理を語ります。22節に、  
「それどころか、体の中で、他よりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。わたしたちは体の中で、ほかよりも格好が悪いと思われる部分を覆って、もっと格好よくしようと、見苦しい部分をもっと見栄良くしようとします。」  
と言っています。人間は、本能的に、自分の体の弱い部分、つまり、内臓の重要さを知っています。内臓こそ、私達人間の生死を握っているところですから。傷付かないように、また、暑さ寒さから守るために、衣服で覆い、調節しますし、見栄えを良くすることにも、心を用います。もしも内臓の事を考えずに行動すれば、すぐに病気になってしまいます。

一方、24節には、  
「見栄えの良い部分には、そうする必要はありません。」  
と言っています。神さまの、人間に対する深い配慮は、  
「神は、見劣りのする部分を一層、引き立たせて、体を組み立てられました。それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。」  
と言っています。

人間の体ほど、多くの器官、多くの部分から成り立っているのに、一つとして、要らないと言うものは無く、全てが必要で、全く争いが無く、完全に互いに依存し合って、調和が取れています。人体こそは、神さまの傑作です。そして、そこに、何かが発生しますと、26節に、  
「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、

すべての部分が共に喜ぶのです。」  
とあります。

体には全く分裂がありません。病気になれば、その部分だけが痛むのではありません。全身で痛みを引き受け、心も痛みます。反対に、何か誉められますと、それは、その人の存在全てが誉められる事であり、心も体も、喜びに溢れます。この体の真理こそ、キリストの体である教会のあるべき姿なのです。

神様の前に、人間の価値は能力ある者も、無い者も、奉仕できる者も、出来ない者も、身分の高い者も、低い者も、富める者も、貧しき者も、壮年も、高齢者も、健康な人も、病弱な人も、全ての人が、神さまにとっては、一人ひとり、掛け替えの無い存在であり、神さまが、ご自身のお望みのままに、一人ひとりに、命と使命を与えて、この世に送り出して下さっているのです。

それは何のためでしょうか。それは互いに、補い合い、助け合って、愛を築いていく為なのです。教会は、弱い人、病める人、貧しい人、苦しんでいる人、助けを求める人が、必要なのです。教会はどんな人も受け入れて、ローマの信徒への手紙12章15節にありますように、

「喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい。」

との命令を、実践して行くべきところです。パウロは人間の体が如何に、多くの器官を備えながら、それぞれは決してそれ自体で生きる事はなく、それぞれが補い合い、互いに依存し合って、一つの体に調和し、一体となって生かされている。その姿こそ、キリストの体とされた、教会の姿であるべき事を篤く語りました。

そしてパウロは、27節に、  
「あなた方はキリストの体で、  
また、一人一人はその部分です」  
と、宣言しました。神様は教会が、キリストの体として、元気に活発に働いて、その使命を果たせるように、教会の中に色々な人をお立てになったのです。28節には、  
「第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、  
次ぎに奇跡を行う者」  
とあって、第一、第二、第三と言っていますので、

序列の様に受け取られがちですが、ここでは、その偉さや、重要性の順位を挙げているのではありません。それはあくまでも、役割を数える数詞です。初代教会には、ずいぶん多くの役割分担があったものです。使徒、預言者、教師、これらは御言葉に携わる人達です。奇跡を行う者、病気を癒す賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者など、何と色々な賜物を持った人が揃っていた事でしょうか。

しかし、彼らは、それぞれに、自分に委ねられた賜物を、自分の能力、努力で得たかの様に、誇り合っていたのです。彼らにはキリストの体としての教会観はありませんでした。パウロはその彼らに、

『賜物は、神さまが御心に従って、各自に相応しくお与えになったこと』

に、気付かせるために、問い掛けました。

29節に、

「皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。皆が病気を癒す賜物を持っているだろうか。皆が異言を語るだろうか。皆がそれを解釈するだろうか。」

と問い掛けて、

『神さまは、そんなことはなさっていない。それぞれに、違った賜物をお与えになっている事の深い意味を考えて欲しい。』

と投げ掛けています。

そして、そうなさっている神さまの御心は、教会が健全なキリストの体として一つとなって、キリストの御救いを世に広めて行く為に、ほかなりません。パウロはそこで、31節に、

「あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるように、熱心に努めなさい。」

と言っています。それは決して賜物に序列があると意味ではありません。教会がキリストの体として、健康的に生き生きと働くためには、何よりも、キリストの愛が、そのエネルギーなのです。教会はどんなに大きな働きをしても、それがキリストの愛に依るものでなければ、キリストの体としての役目を果たしているとは言えません。

パウロが言う、もっと大きな賜物とは、このキリ

ストの愛の事なのです。この愛に付いては、コリント13章で、その愛の深さが語られて行きます。わたしたちの教会も、コリント教会の姿を、他人事とする事は出来ません。私達も何時も、その危機に晒されています。私達は日曜ごとに、こうして、礼拝を献げていますが、その礼拝毎に、イエス・キリストの十字架の贖いによる御救いに入れられた事を感謝し、キリストの体である、教会に加えられた恵みに感謝して、キリスト者とされた自覚、キリストの体である教会に組み入れられた責任を新たにして、同信の友と共に、直すら、主イエス・キリストの御足の跡に従って行くではありませんか。

お祈りを致します。

天の父なる神様、罪に汚れた私達を、イエス・キリストの御救いに入れて下さり、キリストの体である教会に連ならせて下さり、有難うございます。

同信の友と、この様にして、主を礼拝する恵みを有難うございます。

共に頭であるキリストの下に、一つとされて、キリストの体の部分として、与えられている使命に立ち、互いに愛し、助け合い、主の教会を立て上げて行く者と成らせて下さい。

救い主、イエス・キリストの  
お名前によってお祈りを致します。  
アーメン。